

お年寄りが 地域で生き生きと暮らすための 手助けになれば



デイサービスいなりやまは、65歳から92歳まで108名のかたが利用しています。平均年齢は85歳。「楽しく体や指先を動かすことがリハビリにもなるんですよ。」と生活指導員さん。

センターでの一日は健康チェックには始まり、手話を交えた歌、リハビリ体操、入浴、給食、レクリエーションなど、みんなが自分のペースで無理のないように楽しみながら過ごしていきたいと思います。そして生活指



お風呂のお湯や各部屋の床暖房は、隣の第二環境センターの余熱を利用しています。デイサービスいなりやま ☎953-3280

REPORTER'S EYE



【リポーター】

星野真澄さん(柏原在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがレポートします。

長寿化・高齢化に伴う 在宅福祉支援のために

日本は平均寿命80歳をこえ世界一の長寿国になり、平成32年には4人に1人が65歳以上になるといわれるほど高齢化が進んでいます。お年寄りの増加に伴い介護を必要とするかたも増えることから、国や市のゴールドプランが策定されたのは皆さんもご存じのことだと思います。今回はこの中で在宅福祉支援施策の重要な柱の1つとして掲げられている「デイサービス」についてご紹介します。現在市内には特別養護老人ホームに5か所の「デイサービスセンター」が設置されていますが、今日は市が設置して社会福祉協議会が運営する「デイサービスいなりやま」に浜野参与のご案内で伺いました。

「デイサービスいなりやま」は、今年2月に稲荷山公園駅前にオープンしたふれあい健康センター(サピオ稲荷山)に併設されました。デイサービスは必要な介護や施設の規模に応じてA型・E型に分けられています。この「デイサービスいなりやま」はC型といって、市内にお住まいのおおむね65歳以上の、身体は虚弱だけれど日常生活はほぼ自立できるかたが利用できるのだそうです。明るい建物の中には日常動作訓練室、休養室、浴室相談室が設けられ、お風呂のお湯や各部屋の床暖房は、隣の第二環境センターの余熱が利用されているのが大きな特徴で、月曜日から土曜日まで毎日18人のお年寄りが利用しています。



「今日はおかげんいかがですか。」デイサービスの一日は、問診や血圧の測定など看護婦さんの健康チェックで始まります。

センターにおじゃましてみて、皆さんが生き生きとレクリエーションなどに取り組んでいる姿に感動しました。私も、まだまだお年寄りから学ばなくてはならないことがたくさんあると感じています。そのためにはお年寄りが地域で元気に暮らしていることが大切で、みんなの協力がより一層必要なのではないかと思いました。

健康は人から借りられません 「自分の体は自分で守る」 これが長生きの基本です

大野卓三さん



大野さんが手にしているのは、自分で調べた「江戸時代の関東の豪商といわれた綿貫家」に関する本。このほか、なつかしの歌や老人クラブのあり方についてなど、たくさんのお話を伺っています。

入間川にお住まいの大野卓三さんは明治32年1月、北埼玉郡(現在の行田市)生まれ、もうすぐ百歳です。銀行にお勤めだった26歳の時に入間川町にいられた。経理に明るかったことから、入間川町長の願いで大正14年から20年間収入役を務めました。役場は今の社会福祉会館の場所にあつて、町長以下10人の職員しかいなかったんですよ。町も今と違ってゆったりしていましたね。と当時を振り返ります。昭和37年には地域を呼びかけて市内で初めて菅原寿会を設立、現在も会長をつとめる一方、老人クラブ連合会副理事長などに当選しています。その功績に昭和62年には勲五等瑞寶章も受けられました。老人クラブの指導者のあり方についても皆さんの前で話をする機会がありますが、人の意見をよ



9月15日の敬老の日には100歳の長寿を記念して、内閣総理大臣から祝い状と銀杯が贈られ、町田市長がお届けしました。

く聞いてまとめ、それに自分の意見を加えることを心がけています。とのこと。また、歴史が好きで、江戸時代の関東の豪商であった綿貫家について自分で調べ、出版してきました。「綿貫家とともに町は発展してきました。徳川家が崩壊しなければ日本一の財閥になっていたでしょうね。」と教えていただきました。健康法をうかがっていると、「30年以上続けているのが毎朝20分の乾布摩擦。そして天気がよければ1時間ほど赤間川沿いを散歩します。道端の花や田んぼに四季を感じますね。もちろん食事にも注意しています。」とのことでした。また、まきで沸かした軟らかいお湯のお風呂が好きで、まき割りも日課になっているのだそうです。そして「家庭円満が第一、家族はもちろん、若い人も大きな気持ちで年寄りを見てほしいですね。」とおっしゃる大野さんが今の気持ちを一言詠んでくださいました。

「ありがたや、百里の道は来たけれど冥土の道は未だわからず」いつまでもお元気で過ごしていただきたいと思います。

私は子どものころから科学の実験が好きで、昭和12年、私が23歳の時に「J20M」というコイルサインで開局しました。当時はまだアマチュア無線という言葉はなく、「私設無線実験局」という名称でした。この免許は残念ながら戦後持てなくなりましたが、いまは永年たずさわってきた電波エネルギーの仕事で離れたのをきっかけに、昭和63年に74歳で2級の試験に合格し、毎日交信を楽しんでいます。また、私は「レインボークラブ」という戦前から活動している人たちの全国規模のクラブに所属しています。そこで昭和15年に交信した人と会うことができ、とても感激しました。アマチュア無線は年齢・国籍・人種を問わず世界中の人と交信できる喜びがあり、ふれあいの基本だと思っています。そして人生の勉強にもなるこの趣味をずっと続けていきたいと思っています。



アマチュア無線
山田憲蔵さん(上広瀬在住)